

【私の意見(針山日出夫)】

「石破総理、鳥取大山の‘僧兵荒業の岩’で修行なされよ！」

～ 肉体・精神を鍛え、見識と指導力を磨いて内外・内輪の争いに備えられよ！～

1. 前書き

この意見は、10月4日の石破首相所信表明演説に対する私の違和感と危機感を主としてエネルギー政策の観点から述べるものである。

10月1日に開催された第24回SNWシンポジウムは、実にタイミングが良かった。岸田前総理と就任直後の石破新総理とのエネルギー政策に対する深刻なギャップが明らかになり、これで、会場に危機感が喚起されたお陰で大変盛り上がった。両総理に感謝申し上げたいところである。が、石破丸がこれからの逆巻く荒波の航海でタイタニック号にならないよう祈りを込めて本拙稿を進めたい。

2. 「5箇条の御誓文」に透けてみえるもの

冒頭に明言するが、筆者は今般の所信表明に対しては「石破カラーを封殺し安全運転に徹しすぎて刺さってくるものがない」という観点でいささか不満ではある。ただ、現下の国家的課題に対して踏み込みがたりないもののそこそこ万遍無くアドレスした点ではギリギリ合格点をあげたいと思うところ。

野党党首連中は、「噛んでも噛んでも味のしないガムのような演説」とか、「前代未聞のスカスカの演説」などと酷評。野党が総理の所信表明を褒めることはないが、保守系の日経・産経の評価も辛口である。両紙面からは総裁選の渦中での発言と演説との乖離からくる失望感が漂ってくる。

しかし、問題は空疎な「守る」の連呼と言える。演説にある5つの、①ルールを守る ②日本を守る ③国民を守る ④地方を守る ⑤若者・女性の機会を守る は、「令和の5ヶ条の(守り)のご誓文」と言っておきたい。「5か条のご誓文」をかざして国民の納得と共感を得るべく語りかけたものの、このご誓文からは総理の決意が伝わってこない。空疎な差しさわりのない美辞麗句だけでは、したたかな準備と知恵が求められる「守り」の道は険しいのではないだろうか。5か条のご誓文で一番守りたいのは政権と総理の椅子ではないかと憶測するのは筆者だけではないだろう。

3. エネルギー政策の位置づけに違和感

エネルギー政策は「国民生活を守る」のカテゴリーで語られている。ここが大問題だ！世界の分断と対立が先鋭化し、地政学的リスクが日に日に高まって不透明・不確定に満ちた現下の世界情勢は準非常事態との認識が必要である。平時ならともかく、エネルギーは国家の安全保障の枠組みで語られて然りと考える。エネルギーはご誓文の「日本を守る」カテゴリーで熱く語られるべき最重要政策課題である。経済政策の一環との認識でエネルギーを語っている限り国民は『安全とエネ

ルギーは誰かが与えてくれるもの』との惰眠から覚醒されることはないかと危惧する。

石破総理は安全保障の論客を自認していると考えるが、「令和の5か条の(守り)のご誓文」で謳われているすべての守りに共通する基盤的施策はエネルギー政策である。エネルギーなくして国家無し、エネルギー供給構造の構築は国家の総力を挙げて初めて完遂されることを肝に銘じてほしい。石破総理は、太陽光パネルの設置や風車を沖合に設置するだけでは安定供給は達成できないこと、原子力なくしてエネルギー安全保障は達成されない事をとことん勉強してほしいと願う。

4. おわりに

石破政権のエネルギー環境政策はしっかり監視しなければならないと思う。総理には、郷里の修業場へ行って、肉体、精神を鍛えつつ修業の合間合間に総理としての指導力と見識の足りなさを自覚してほしいと願う。我々は、タイムリーに提言を発し続ける努力を継続することが肝要であると改めて感じているところである。

以上